

八尾市環境総合計画に係る各基本方針の総括シート

令和5年度 第2回 八尾市環境審議会
令和6年3月18日
資料 3

基本方針1 一人ひとりが地球温暖化に取り組んでいるまち

施策全体の評価	課題
市域の二酸化炭素排出量の推移は、平成25年度(2013年度)をピークに減少傾向である。部門別では、廃棄物部門がほぼ横ばいだが、家庭・業種・産業・運輸部門で減少傾向である。 また、環境省の「八尾市地域再生エネ推進交付金(重点対策加速化事業)」が採択され、令和5年度から令和10年度までの事業期間で、補助事業等を推進している。当該事業では、市民、事業者への間接補助事業を通じて再生可能エネルギー設備の導入や省エネ設備の導入を市域で推進しており、公共施設においては、再生可能エネルギーの導入、公共施設のZEB化に向けて庁内で検討を進めている。	市域の二酸化炭素排出量は令和3年度以降、増加傾向にある。市役所の温室効果ガス排出量をはじめ、市域全体の排出量を抑えるべく、設備投資への支援や市民、事業者、行政で連携した啓発や事業の推進が必要である。 現状として、再生エネルギーポテンシャルに対して太陽光発電設備の設置が進んでおらず、地域のエネルギー自給率が低い。そのため、エネルギー代金が域外に流出しており、地域内の経済循環にも影響を及ぼしている。域内のエネルギー自給率を高めるため、住宅・工場・事業場・公共施設等において、太陽光発電設備の設置を推し進めていく必要がある。

Ⅱ 八尾市環境総合計画 環境指標(目標値及び実績値)

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
									市域の二酸化炭素排出量は令和3年度以降増加傾向にある。その中で、令和3年度にゼロカーボンシティやおを宣言し、令和4年度に本格的に計画を進める体制を構築。令和5年度から環境省の交付金を活用し、地域再エネ推進交付金重点対策加速化事業を開始している。市域の温室効果ガス排出量削減に資する補助事業の実施や、様々なコンテンツを活用して啓発することにより、温室効果ガス排出量削減につながる取り組みを促進する。
市域の温室効果ガス 排出量(万t-CO2)	令和10年度(2028年 度)に123万 t-CO ₂ 【減少】	126.4	130.1	132.4	133	100	○	変更	
		(R元)	(R2)	(R3)	(R4)				

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
市役所の温室効果ガス排出量(t-CO2)	令和10年度(2028年度)に18,262 t-CO ₂ 【減少】	20,395	20,863	20,863	19,667	94.2	×	変更	市役所の温室効果ガス排出量は令和3年度と令和4年度を比較したところ微増であった。環境マネジメントシステムや公共施設のZEB化等を通じて全庁的に削減の取り組みを進めていく。
				(R4)					

Ⅲ 八尾市環境総合計画 数値管理指標(環境指標に対する補助指標)

施策1. 脱炭素型の生活・事業活動の推進

	R3	R4	R5
市域のエネルギー消費量(TJ)	15512.3	15700.6	15700.6
	(R元)	(R2)	(R3)

再生可能エネルギー の導入量(kW)	R3	R4	R5
	27113	28,916	29,925

公共施設における ESCO事業導入件数 (件)	R3	R4	R5
	3	3	5

施策2. 気候変動への適応の推進

健康情報発信回数 (回)	R3	R4	R5
	10	16	20

感染症予防の啓発回数(回)	R3	R4	R5
	5	7	9

災害リスクの高い地域における地区防災計画策定進捗率(%)	R3	R4	R5
	25	25	50

基本方針2 資源が循環する豊かなまち

施策全体の評価	課題
令和3年度から令和4年度のごみ排出量及びごみ処理量は減少しており、引き続き目標達成に向けてごみの減量・資源化を継続的かつ効果的に推進していく。	全体のごみ量は減少傾向にあるが、家庭系ごみの可燃ごみ(燃えるごみ)の量は計画値よりも高く推移しており、更なるごみの減量を推進するため、効果的な取り組みを検討する必要がある。

Ⅱ 八尾市環境総合計画 環境指標(目標値及び実績値)

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量(g)	令和10年度(2028年度)に420(g) 【減少】	497	485	485	458	94.4	×	継続	「八尾市一般廃棄物処理基本計画(ごみ編)」に基づき、ごみの減量・資源化に向けた取り組みを実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、未実施となった取り組みも残されており、目標達成に向けて更なるごみの減量・資源化を継続的かつ効果的に推進していく必要がある。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
資源化されている量を 除くごみ処理量(t)	令和10年度(2028年度)に57,000(t) 【減少】	68,209	66,682	66,682	63,291	94.9	×	継続	「八尾市一般廃棄物処理基本計画(ごみ編)」に基づき、ごみの減量・資源化に向けた取り組みを実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、未実施となった取り組みも残されており、目標達成に向けて更なるごみの減量・資源化を継続的かつ効果的に推進していく必要がある。

Ⅲ 八尾市環境総合計画 数値管理指標(環境指標に対する補助指標)

施策3. ごみの減量・再使用の推進

食品ロス排出量(t)	R3	R4	R5
	7,474.1	5,924.2	5,924.2
プラスチックごみの焼却量(t)	R3	R4	R5
	3,689.2	3,479.3	3,479.3

施策4. 資源が循環する仕組みの充実

資源物が適正にリサイクルされている割合(%)	R3	R4	R5
	12.7	13.2	13.2
ペットボトルの処理量(t)	R3	R4	R5
	615.58	620.99	675.24
容器包装プラスチックの処理量(t)	R3	R4	R5
	2,230.6	2,147.5	2,057.2
回収ボックスを設置している市内小売店舗数(店舗)	R3	R4	R5
	27	27	28

施策5. 適正なごみ処理の維持

一般廃棄物最終処分場への埋立量(m ³)	R3	R4	R5
	800	730	712
立入検査回数(回)	R3	R4	R5
	704	849	450

基本方針3 生活環境を守り、安全・安心に暮らせるまち

施策全体の評価	課題
大気、水質、騒音等について、全体的に達成している指標が多いものの、目標値未達の指標もあるため、今後も引き続き、事業所規制や啓発等を実施し、指標の達成をめざしていく。	騒音環境基準達成率及び公害苦情解決率については、目標値を達成できていない。 騒音環境基準達成率については、今後も継続して監視を行っていく。また、幹線道路に面する地域については、状況に変化があり大きく悪化がみられる等があれば必要に応じて、道路管理者など、関係機関への情報提供等により改善を促す。 公害苦情解決率については、今後も公害の未然防止に努めるとともに、苦情の早期解決に向けて迅速かつ効率的な対応を行う必要がある。

Ⅱ 八尾市環境総合計画 環境指標(目標値及び実績値)

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
大気環境基準達成率 (保健所局の環境基準 達成率(NO2)) (%)	令和10年度(2028年 度)に100%	100	100	100	100	100	○	継続	継続して指標を達成している。 今後も引き続き、事業所規制や啓発等を実施し、指標の達成をめざす。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
大気環境基準達成率 (保健所局の環境基準 達成率(PM2.5)) (%)	令和10年度(2028年 度)に100%	100	100	100	100	100	○	継続	継続して指標を達成している。 今後も引き続き、事業所規制や啓発等を実施し、指標の達成をめざす。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
水質環境基準達成率 (恩智川におけるBOD) (%)	令和10年度(2028年 度)に100%	100	100	100	100	100	○	継続	継続して指標を達成している。 今後も引き続き、事業所規制や啓発等を実施し、更なる水質の改善をめざす。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
水質環境基準達成率 (SSの環境目標値適合 率) (%)	令和10年度(2028年 度)に100%	91	100	100	100	100	○	継続	継続して指標を達成している。 今後も引き続き、事業所規制や啓発等を実施し、更なる水質の改善をめざす。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
騒音環境基準達成率 (一般地域の環境基準 達成率) (%)	令和10年度(2028年 度)に100%	97.5	97.5	97.5	100	97.5	○	継続	令和2年度以降、指標は達成できていない状況が続いているが、改善傾向にある。 また、超過している地点において測定値と環境基準値は僅差である。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
騒音環境基準達成率 (道路に面する地域の 環境基準達成率)(%)	令和10年度(2028年 度)に100%	97.4	97.1	97.1	100	97.1	×	継続	概ね同水準で推移している。今後も継続して監視を行い、状況に変化があり、大きく悪化がみられる場合等は関係部局への情報提供等により改善を促す。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
公害苦情件解決率 (%)	令和10年度(2028年 度)に90%	83.4	86.2	86	90	95.8	×	継続	コロナ禍では市民のライフスタイルや事業所の稼働状況により、苦情件数の増加や、これまでにない形態の苦情が発生する等の状況があったが、令和4年度には件数の減少が見られるとともに、解決率も向上した。今後も苦情の早期解決に向けて、迅速かつ効率的な対応を行う。

Ⅲ 八尾市環境総合計画 数値管理指標(環境指標に対する補助指標)

施策6. きれいな空気・水及び騒音・振動が少ない環境の保全

(大気)環境基準等適合率

	R3	R4	R5
各測定局における環境基準適合率(SO ₂ 、SPM、NO ₂ 、O _x 、HC)	81.8	81.8	81.8

有害大気汚染物質に係る環境基準値及び指針値適合率(ベンゼン等)	R3	R4	R5
	100	100	100

(水質)環境基準値適合率

	R3	R4	R5
類型指定河川(恩智川、平野川、第二寝屋川)における生活環境項目(BOD、SS)の環境基準値適合率	100	100	100

(水質)生活排水処理率(%)	R3	R4	R5
	88.5	90.0	90.4

ダイオキシン類環境基準値適合率(%) (大気、水質、底質、地下水質、土壌)	R3	R4	R5
	100	90.9	100

施策7. その他の生活環境の保全と創造

地下水汚染概況調査に係る環境基準適合率(%)	R3	R4	R5
	100	100	100

公害苦情件数(件)	R3	R4	R5
	205	159	165

環境の保全と創造に関する協定締結件数(件)	R3	R4	R5
	303	295	293

基本方針4 生物多様性の保全と活用を進め、身近な自然と共生するまち

施策全体の評価	課題
自然環境において、全ての環境指標で目標値を達成している。引き続き、生物多様性や里山の保全活動の参加者数及び利用者数の増加に向けて、体験や周知等を図っていく。	里山保全活動について、環境指標は達成しているものの、実態としてボランティアによる活動が中心であり、高齢化が進んでいるため、担い手の確保と、持続可能な活動のための資金確保の検討を進めていく必要がある。企業や大学等、多様な主体の参画による里地里山の保全活用の取り組みを進めていく必要がある。

Ⅱ 八尾市環境総合計画 環境指標(目標値及び実績値)

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
里山保全活動の参加人数(人)	令和10年度(2028年度)に360人	358	370	375	360	100	○	継続	コロナの影響により活動回数が減少した期間があったが、令和3年度から令和5年度にかけて、活動の参加人数は増加している。引き続き、活動のPRを進めていく。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
農用地利用集積計画の作成等の件数(件)	令和10年度(2028年度)に10件	50	61	76	10	100	○	継続	農地バンク制度を利用し、貸借希望者の斡旋調整を行った。法の改定により制度が変わることがあるため、制度に沿った計画の作成を進めていく。

Ⅲ 八尾市環境総合計画 数値管理指標(環境指標に対する補助指標)

施策8. 生物多様性とその生息環境の保全

里山保全活動に関する活動回数(回)	R3	R4	R5	ニッポンバラタナゴの推定個体数(尾)	R3	R4	R5
	32	34	40		100,000	100,000	100,000

施策9. 自然とふれあえる場の創出

玉串川沿道整備事業の整備率(%)	R3	R4	R5	野外活動センターの利用者数(人)	R3	R4	R5
	0.5	7.0	15.9		59,792	81,973	82,000

施策10. 里山の自然や都市近郊農地の活用

農用地利用集積計画の作成等の面積(㎡)	R3	R4	R5	イノシシの捕獲頭数(頭)	R3	R4	R5
	55,490	71,987	47,109		31	10	5

基本方針5 快適で個性豊かな住みよいまち

施策全体の評価	課題
都市環境について、環境指標目標値が未達成の項目があったものの、進捗としては目標値に近づきつつある。住みよいまちに向けて、引き続き周知啓発を図りながら、取り組みを進めていく。	都市計画道路の整備については、用地取得や道路整備等を実施するため、早期の目標達成は難しいと予想される。大阪府等の関係機関と連携しつつ、着実に進めていく必要がある。放置自転車は、時期や天候、時間帯により増減が見受けられる。これらの放置自転車に効果的に対応するために各駅の自転車の状況を把握し、指導員の配置時間の変更や夜間時間帯における指導啓発を行う必要がある。

Ⅱ 八尾市環境総合計画 環境指標(目標値及び実績値)

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
都市計画道路の整備率 (%)	令和10年度(2028年 度)に57.15%	55.5	55.7	55.9	56.2	99.1	○	継続	都市計画道路久宝寺線、JR八尾駅前線において、用地の取得や一部区間の道路整備等を実施。また八尾富田林線について府へ要望活動を行った。引き続き、計画的に用地取得、道路整備等を実施していく必要がある。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
放置自転車の移動保管 台数(台)	令和10年度(2028年 度)に2,200台	1,660	1,898	2,200	2,600	100	○	継続	令和3年度、令和4年度とコロナ禍のため、街頭イベントを予定通り実施できなかったが、継続した取り組みにより目標を達成できた。課題として、放置自転車は、時期や天候、時間帯により増減が見受けられる。これらの放置自転車に効果的に対応するために各駅の自転車の状況を把握し、指導員の配置時間の変更や夜間時間帯における指導啓発を行う必要がある。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
地域一斉清掃の収集依 頼件数(件)	令和10年度(2028年 度)に930件	878	912	925	930	98.1	○	継続	コロナ禍の影響もあり令和3年度は減少傾向となったが、令和4年度、令和5年度は増加傾向となっている。今後もHP等で地域の環境美化に資する制度の周知を図っていく。

Ⅲ 八尾市環境総合計画 数値管理指標(環境指標に対する補助指標)

施策11. 快適な都市環境の確保

	R3	R4	R5
緑化樹・記念樹の配付本数(本)	756	598	624

	R3	R4	R5
玉串川等の桜の植樹本数(本)	21	16	14

	R3	R4	R5
自転車駐車場利用率(%)	71.5	75	75

施策12. 清潔で美しいまちづくり

	R3	R4	R5
不良状態のあき地に係る申出件数に対する改善率(%)	85.7	56.9	51.2

	R3	R4	R5
屋外広告物の許可(件)	385	369	385

施策13. 歴史的・文化的環境の保全

	R3	R4	R5
指定文化財などの件数(件)	127	129	132

	R3	R4	R5
史跡の保全等に関する市民ボランティア活動参加人数(人)	79	106	63

基本方針6 市民・事業者による環境保全活動が活発なまち

施策全体の評価	課題
環境教育や環境学習については、リサイクルセンター学習プラザめぐでの小学生の社会見学をはじめ、各学校園への出前講座や様々な環境イベント、ホームページやポータルサイトでの動画等での情報発信を行っている。 環境マネジメントシステム認証取得事業所数については減少傾向であったが、令和5年度は前年度よりも増加している。環境経営の重要性や導入する上でのメリットを事業者に対し、訴求していく。	学校園への出前講座においては、これからも学校園の実態を把握するとともに、ニーズにあった出前講座を引き続き検討していく必要がある。また、家庭や事業者における各種環境活動に係る相談支援の充実も求められる。 環境マネジメントシステムの認証取得にあたり、導入コストの関係から、新規の認証取得や継続を断念する事業者があることや、独自の環境マネジメントシステムの運用を進める事業者が増加している状況も考えられる。環境改善に直結した紙・ごみ・電気などの削減だけでなく、日常業務のなかに含まれる様々な環境側面の改善にも影響するため、その点において訴求していく必要がある。

Ⅱ 八尾市環境総合計画 環境指標(目標値及び実績値)

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
環境マネジメントシステム認証取得事業所数 (事業所数)	令和10年度(2028年度)に110事業所	100	94	96	110	85.5	×	継続	環境マネジメントシステム認証取得事業所数は令和3年度から令和4年度にかけて減少したものの、令和5年度では増加した。様々なツールを活用し、環境経営の重要性や導入メリットを訴求していく。

指標の概要	目標値	R3	R4	R5	R6 (目標値)	R4時点 進捗率	達成見込	指標の妥 当性	総括
市民環境講座の参加者数(人)	令和10年度(2028年度)に200人	484	444	1,066	200	100	○	変更	「環境パートナーシップ協議会サソテナやお」にて、NPOや事業者の専門性を活かした出前講座を実施している。講座内容の充実が図られたこともあり、活用される学校園が増加した。

Ⅲ 八尾市環境総合計画 数値管理指標(環境指標に対する補助指標)

施策14. 環境を大切にする人づくりの推進

学習プラザへの年間 来館者数(人)	R3	R4	R5
	4,942	4,026	5,300

出前講座等の実施回数 (回)	R3	R4	R5
	0	33	36

施策15. 市民・事業者の自主的な環境保全活動や環境経営の推進

中小企業向け環境マネジメントシステム分の補助件数(件)	R3	R4	R5
	2	0	0

企業を対象とした環境セミナーの開催回数(回)	R3	R4	R5
	4	7	11